



## 0564 延床表面積40坪の家

石飛亮 横浜国立大学 大学院



### プレゼンサマリー

東京都に広く存在する木造住宅密集地域。ほとんどの住宅が二項道路に接しているため、建て替え後はセットバックする分、個々の住宅同士は離れ敷地は狭くなる。そこで建具によって開閉する家を建てることで、内外をまたいでさまざまな行為を誘発し、人びとの関わり合いをもたらす。建具を閉じている時の延床表面積は30坪程度、開いた時は40坪以上の器となる。敷地を東京都墨田区向島の木造密集地域に設定し、衰退しつつある商店街の路地に面した建物の建て替えを提案する。両側の道だけでなく両隣の建物からもセットバックし、新たな道をつくり商店街からの回遊動線をつくっている。  
(プレゼンテーションより抜粋)

### 審査員コメント

- ・可能性を感じていたが、お店と聞いて残念だと思った。開かないとご飯を食べられない、開かないとお風呂に行けないというように、日常生活行為が建具と結び付いているとよかった。開け閉めしなくても生活できてしまうような感じが弱い。  
(千葉学)
- ・60cm、2尺くらいの寸法の建具が家具になる案は以前からよくあると思う。それと路地との結び付け方にも疑問を感じる。  
(松山巖)
- ・建具が小道具になってしまっていて、積極的に周囲に対して開いていくことにつながっている感じがあまりしない。  
(西村達志)







延床表面積 40 坪の家

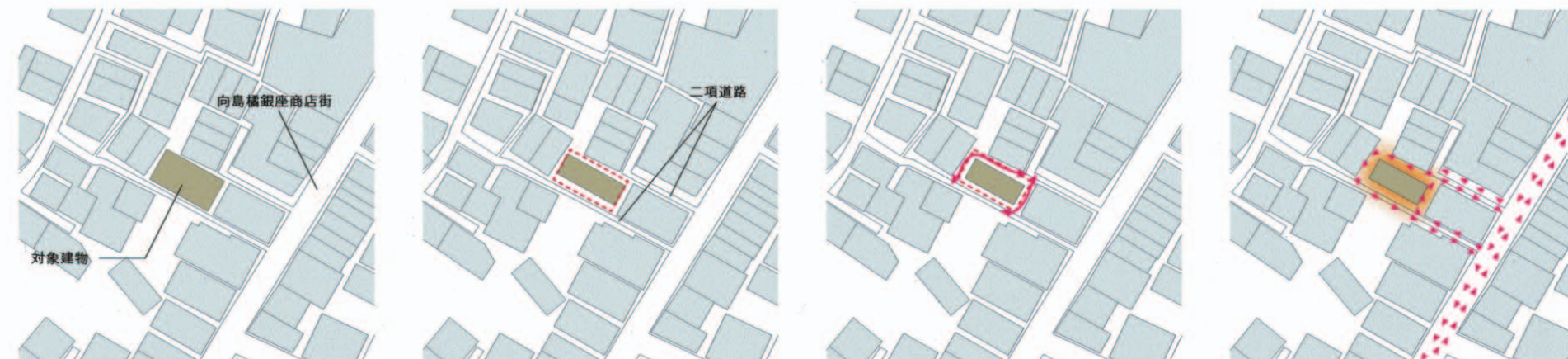
東京都に広く存在する木造住宅密集地域。そこには狭小な住宅が所狭しと建ち並び、路地には生活感が滲みだしている。しかしそれらの多くは幅員 4m 未満の二項道路に接しているため、今後は道からセットバックして建て替える必要がある。道が広がる代わりに住宅同士の距離が離れてしまえば、現在のこの地域における生活感溢れる外部空間は失われ、コミュニティもこれまでより弱いものになってしまうだろう。当然ながら防災のことを考えると、道を広くすることは必要不可欠なことである。そこで、住宅同士が離れてしまっても今まで以上に生活感の溢れ出すような、建具によって開閉する家を提案する。建具は建物の内外をまたいで様々な行為を誘発し、そこでの人々の関わり合いをもたらす。敷地が狭くなった分、住宅の外部へとはみ出しながら生活していく。ここでいう延床表面積とは建具が開放されたときのこの住宅の持つ面積である。閉じているときは 30 坪程度であるが、全ての建具が開いたときこの家は 40 坪以上の器になる。

□Site



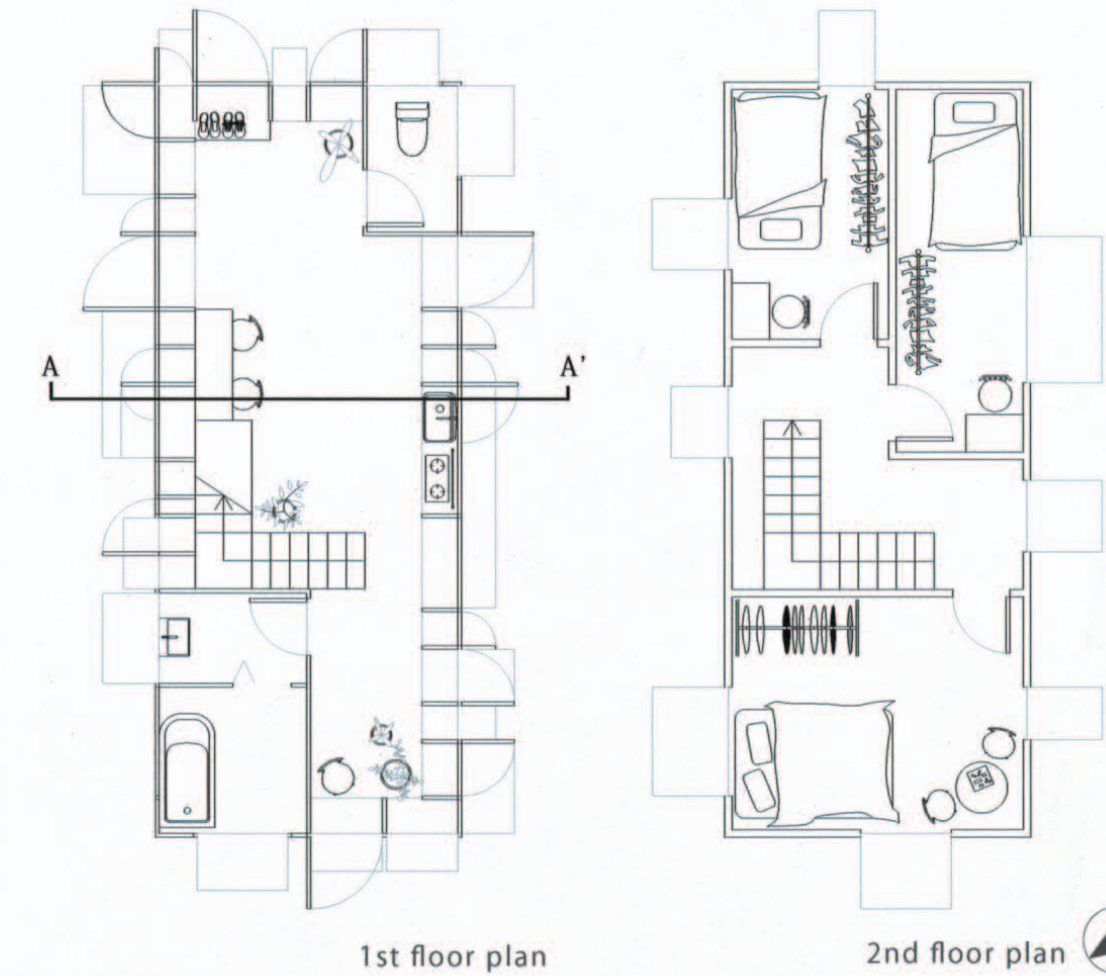
東京都墨田区京島  
古い木造家屋が多く残り、接道条件の悪い宅地や細街路が多く防災上危険である最重点整備地域の 1 つである。路地が多く存在し、植栽や住民の私物などが置かれ生活感が溢れ出ている。玄関を開け放している住宅も少なくない。この街には地元を根ざした店舗の多い向島橋銀座商店街（キラキラ橋商店街）が縦断しており、連日多くの地元の客で賑わう。

□Process

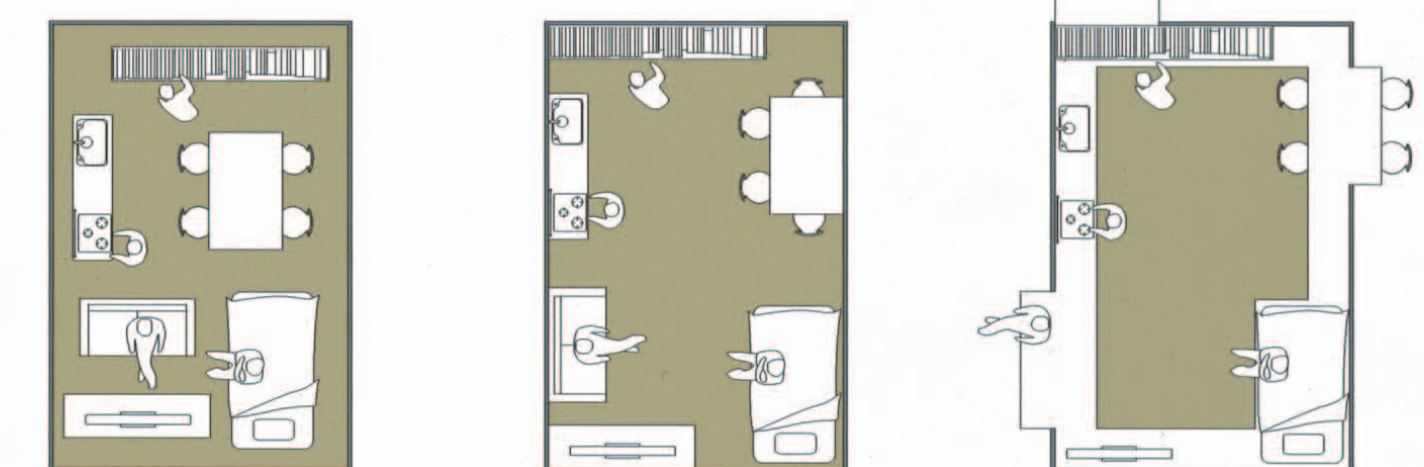


1. 二項道路に挟まれているため、建て替えるには両側からセットバックする必要がある。  
2. 単純にボリュームを立ち上げてしまえば、今までのような路地の界限性は失われてしまう。  
3. 両隣の建物に対しても後退することによって、既存の路地と路地をつなぎ合わせる。  
4. 建物外周部を開き路地に公共性を持たせ、裏道による回遊動線を商店街にもたす。

□Plan S=1:100

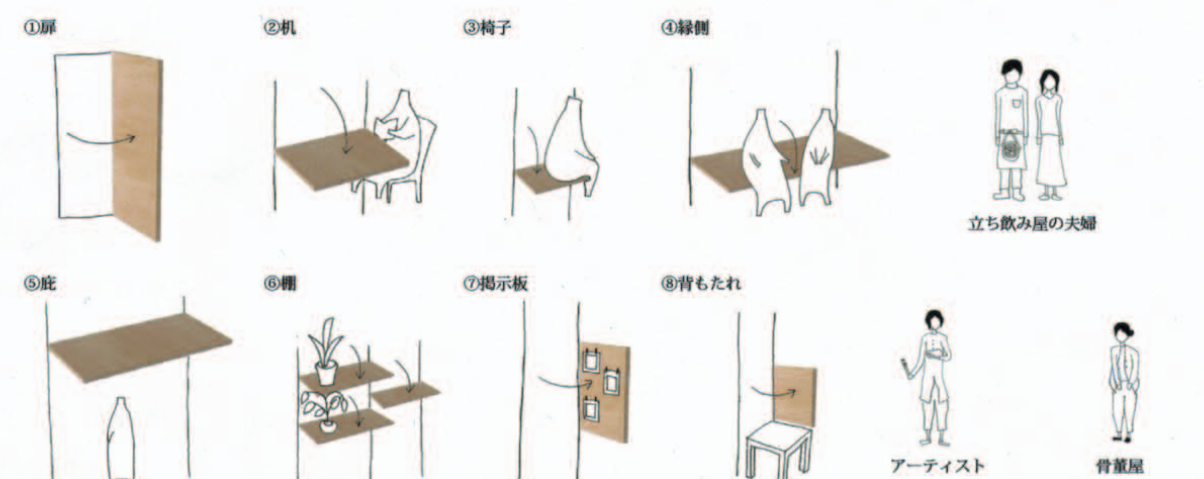


□Diagram



1. 狭い敷地で広い内部空間を獲得するのは困難である。  
2. 家具やモノを建物の外周部に寄せることで狭い敷地を効率よく使うことができる。  
3. 外部に接する建具を家具化することで行為は内外をまたいで起こり、周辺との関わりを持つ。

□Pattern of Furniture



建具には左右に開閉するものと上下に開閉するものがある。それぞれ大きさや高さによって様々な行為を誘発する。これらの建具を活用しながら、立ち飲み屋を経営する夫婦と骨董屋、アーティストの 4 人がシェアしながら共に生活している。

□Section S=1:100

